

# 五人士籠御書

にんつちろうごじよ

せんあくてご房をばつけさせ給。又しらうめが一人あらんするが、ふびんに候へば申。

今月七日さどの国へまかるなり。各々は法華經一部づつあそばして候へば我身並父母兄弟存亡等に廻向しましませ候らん。今夜のかんずるにつけて、いよいよ我身より心くるしさ申ばかりなし。ろう(牢)をいでさせ給なば明年のはるかならずきたり給。みみへまいらすべし。

せうどのの但一人あるやつをつけよかしとをもつ心、心なしとをもつ人、一人もなければしぬ(死)まで各々御はぢなり。又大進阿闍梨はこれにさたすべき事かたがたあり。又をのをの御身の上をもみはてせんがれう(料)にとどめをくなり。くはしくは申候はんずらん。恐恐謹言。

十月三日

日蓮 「花押」

五人御中